

会 議 録

- 1 会議の名称 川根本町総合計画審議会（第1回）
- 2 会議日時 令和8年3月23日（月） 午後2時50分 から
午後4時00分 まで
- 3 開催場所 川根本町役場本庁舎 3階会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委 員 小泉祐一郎会長、山田貴之委員、佐々木直也委員、前田修児委員、
松下陽子委員、豊島宏委員、藪下和英委員、和田智保委員、鈴木麗委員、
中道輝久委員、下嶋恵委員、藤中康彦委員

オブザーバー 静岡県中部地域局長 吉良光陽
 - (2) 執行機関 町長 菌田靖邦
(事務局) 経営戦略課
課長 坂下誠、まちづくり推進室 室長 櫻井久美
主幹 林 三貴
 - (3) 傍聴人 なし
- 5 議題
 - (1) 委員の委嘱について
 - (2) 第3次川根本町総合計画の策定について（諮問）
 - (3) その他
- 6 会議資料の名称
 - ① 第1回川根本町総合計画審議会次第
 - ② 川根本町総合計画審議会委員名簿
 - ③ 第3次川根本町総合計画策定について
 - ④ 川根本町まちづくりアンケート調査結果報告書
- 7 発言の内容

	(1. 開会)
	(2. 町長あいさつ)

藺田靖邦町長

(3. 議事)

(1) 委員の委嘱について

委員の委嘱及び会長あいさつ

(2) 第3次川根本町総合計画の策定について（諮問）

(3) その他

事務局説明

- ・第3次川根本町総合計画策定について
- ・町民アンケートの報告

会長

本日は初回なので説明中心となる。事務局から総合計画の概要と策定の進め方及びスケジュール、アンケート結果の説明があった。これから委員の皆様に、ご検討いただくにあたっての入口の話だった。今までの説明の中で、質問や確認したいことがあれば、遠慮なく発言してもらいたい。

委員

町長に問う。総合計画の冒頭に記載されているまちの将来像について変える予定か否か。

町長

変えてもいい。これから委員の皆様に審議していただければと思っているが、これまでも水と森の番人が作る癒しの里を大事にしてきていると感じている。

委員

アンケート結果をみると町への愛着、住み続けたいという、定住に対してのパーセンテージは8割、9割と高い。しかし、細かいところを見るといろんな不満もある。それを踏まえて幸福度をみると、現在、平均6.3%となっている。説明にはなかったが、50ページ、問21の5年後の幸福度を見ると5.7%に下がっている。0.6下がっている。このままだとちょっと心配だよという意識があるんじゃないかと思う。

このまま計画を引き継ぐというよりは、冒頭の挨拶で町長がおっしゃった、AAR、ちょっと攻めた姿勢という考え方で言うと、番人という言葉はちょっと、そぐわないと思った。番人という言葉は守るイメージがある。もう少し前になるような言葉でもいいのかなと思ったので、質問させていただいた。

会長

総合計画が今後10年間を目的としている。町の永遠のテーマを掲げる場合もあれば、この10年間にこういうまちづくりをしようという力を入れることを強調し、特徴を強めて出すというやり方と両方ある。

委員	<p>第一次総合計画の策定に携わったが、ワークショップが一番印象に残っている。分野ごと、6、7人ぐらいのグループに分かれて、町民の声をいっぱい出してもらった。中高生からも意見を出してもらった。</p> <p>策定スケジュールを見るとアンケートやタウンミーティングはあるが、ワークショップのようなものは記載がないが、実施しないのか。</p>
事務局	<p>今のところワークショップの実施予定はない。ただし、高校生議会、子ども議会という形では考えている。</p>
事務局	<p>川根高校生が、現在の第二次総合計画についての学習を実施している。事務局ではこれから策定していく第三次総合計画の中に川根高校生、義務教育学校生の意見を載せたいと考えている。どのような形で来年度関わられるか検討している状況である。</p>
委員	<p>今年実施してみてもの手応えで言うと、第2次総合計画を読み解くことが非常に難航した。色々な方に話をしてもらったり、行政の方に質問メールを送らせてもらったりしたが、解像度としてはあまり高くなかった。来年度どのようにすすめていくか悩んでいるところ。</p> <p>ただ、高校生議会後の生徒のフィードバックを読むと、「自分たちの意見をに対して町長が答えてくれた」、「自分が言ったことを認めてもらって、反応をもらった」というのは、郷土愛、シビックプライドを醸成するのにとても有効じゃないかと感じている。来年度は、自分の意見を伝える場になれば、より高まっていくのではないかと感じている。</p> <p>例えば、これが継続的に実施されると、子どもたちの評価につながっていくのではないかと思っている。</p> <p>それ以外では、誰にとってのまちづくりをしていくのか。アンケート回答者の半分以上が30年以上住んでいる方、今住んでいる方の意見も重要で全体を見なければならぬのは理解できる。一方で、これから住んでいくであろう子どもたちに目を向ける必要もあるのでは。アンケート結果をみると、ボリュームゾーンに引っ張られるんじゃないかなという思いはある。</p>
会長	<p>委員へ質問。総合計画という文書の性格上、その記述は往々にして抽象度が高くなり、包括的な表現に集約される傾向がある。</p> <p>一方で、ワークショップやヒアリング等を通じて町民や高校生から出される意見は、非常に具体的である。計画策定にあたっては、この「現場の具体的な声」と「計画書としての抽象的な記述」の間のギャップをどう埋めるかが課題となるが、どのように計画に落とし込んでいったのか。</p>
委員	<p>ヒアリングを行って、生の声を聞いた。例えば、中学生・高校生からは、</p>

遊園地やレジャーランドが欲しい等。そういう、子どもたちの意見がいっぱい出てきた。行政側からすれば、無理だろうという話。実現はしない。というか、その計画には載せられなかったという判断。

大人の方たちは、いろんな生の意見がドッと出てきて。すごかった。意見交換も、喧嘩もしたし。例えば、当時の2町が、観光か産業かみたいな話が、ぶつかり合って、本当にすごい意見交換だった。そういったものも含めて、いろんな形で全部吸い上げた中で、各課におろして。それで、各課担当と、策定支援事業者と、自分らと入って。そこで、いろんな分野での意見を詰めていった覚えがある。20年前の話だからあまり詳しく覚えていないが、そのようにすすめた記憶がある。

会長

皆さんから色々な意見やアイデアをいただくが、総合計画はどうしても書き振りが抽象的になる。いいアイデアがあっても計画に生かしていくときに、そのまま反映できない。

せっかくいろいろな意見があっても具体的な意見というのは、取りまとめると抽象化してしまう。計画にまとめる際にいつも悩むところである。

しかし、本来重要なのは具体的な知恵やアイデアで、それらは計画が出来た後に活かされるものであるのうまく利用していきたい。

委員

アンケートの回答結果を確認すると、子育て環境における公園の不足など、先ほどから議論されている町の問題点と町民の切実な声が強く合致していると感じる。

予算や実現可能性の壁はあるが、寄せられた具体的な意見の中にこそ、今後の対策を検討するための重要なヒントが隠されているのではないかと思う。住民が感じている不満や不便さを一つひとつ丁寧に解消し、生活環境を少しずつでも改善していくことが重要である。

こうした着実な取り組みの積み重ねが、結果として「住み続けたい」という意欲を高め、人口の維持や増加につながる好循環（連鎖）を生むと個人的には思っている。

あとは、子どもたちが遊び方やお金の使い方を知らないから、お店が欲しいという意見を聞いたことがある。昔は小さい商店があって、僕も、買いに行った。自分で遊びを楽しく探してたのを覚えている。そういう感じにまた少しずつ戻れば良いなと思っている。

会長

私は経営学部の所属なのでマーケティングの話になるが、消費者のニーズをそのまま商品として実現したら売れないという知見がある。

消費者が発する具体的な要望をそのまま受け取るだけでなく、その要望の背景にある「真の目的」や「本質的な欲求」がどこにあるのかを、改めて整理し、読み解く作業が不可欠。

例えば、高校生がデパートがないと言うが、本当はデパートが欲しいんじ

やなくてそういう遊び場が欲しいということ。だったら、この川根本町で楽しめる、遊ぶ場ってどんな形があるのか、といったアイデアを出していただけるといい。

事務局

アンケートの結果がすべてではないけども、アンケートの結果を参考に5年後のウェルビーイングが低下しないように方向性を定めていく。アンケートを見ると整備が必要なところ、町民が望んでいるものがおのずと見えてくる。そういうところを踏まえながらまちの方向性を決めていく。

人を呼び込みたい、だけど今いる人が出ていかないように、なぜ町を出ていくのかといった原因を考えながら計画を作っていければと思っている。そのために皆さんに意見を出してもらいたい。次回以降もいろいろな意見を出してもらいたいと思っている。

会長

役所というのは、担当課が考える。担当課が考えると、自分の所管の中で考える。道路は道路の担当が考える。皆さんにこうやって集まっていただいているのは、役所の枠に囚われないで、いろいろ複合的に考えてもらうため。

例えば、公園を作るということになると公園担当だけの話になるが、せっかく作るんだったら、もうちょっと移住定住とか子育てとか他の観点も入れて考えてみる。町民の方から見るとそういう見方ができると思う。ぜひ、役所の枠をちょっと超えて、考えていただけるとありがたい。次回から色々お知恵を出していただくということでよろしくお願ひしたい。

町長

この総合計画というのは、町の将来像等を書くから会長が言ったように抽象的にならざるを得ない。だけど、具体的なアイデアも必要があるなら載せればいい。

次回からも委員の皆様のお知恵を貸していただきたい。

オブザーバー

最初のスライドにあったが、2026年2月末が5469人、2045年、20年後の人口推計、2854人と。川根本町も人口減少が進んでいく。これは全国的な問題で、現時点で、仮に出生率2.0という、人口置換水準に置いても人口は結局減っていく。

県としても、必ず進行する人口減少社会にどう適応していくかということを考えなきゃいけないということで、今年度、2040年を見据えた、全県の基本指針っていうのを作成した。また、来年度、地域局ごとに考えていくということを検討している。

先ほどのアンケートの説明にあった、自治会のあり方や行政の計画についても、総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略、人口減少戦略を一体化といったスリム化、いかにスマートに縮小していくかってところを考えなきゃいけない局面に県としてもなっている。先ほど申し上げたとおり地域局単

位で作成するという事になっているので、そのあたりも含めて一緒に考えさせていたきたいと思っている

以上をもって、議事は終了とする。

(4. 閉会)

上記に相違ないことを確認する。

委員長 小泉 祐一郎